7. 施設整備スケジュール

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
整備 スケジュール	選 基本設計	実施設計	選定	建設工事		開院 解体·外構

今後の標準的な整備スケジュールは、上図のとおりであり、平成34年度中の新病院の開院を目指します。

施設整備イメージと建替手順

配置計画

新病院の具体的な建設位置、建物形状、 駐車台数等については、今後の設計段階で 決定されますが、敷地内でケーススタディ した一例を、以下に施設整備イメージとし て示します。

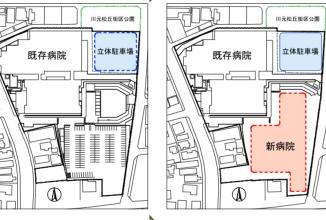


建替え手順

建替えは限られた敷地の中で病院運営を行いながら工事を進める必要があるため、以下のような建替え手順を想定します。

①立体駐車場整備 既存配管切り回し





③既存病院解体

既存病院解体

④外構工事•付帯施設建設



編集•発行

地方独立行政法人 市立秋田総合病院 経営企画室 〒010-0933 秋田市川元松丘町 4-30 TEL 018-823-4171 FAX 018-866-7026

新病院

立体駐車場

平成 29 年 3 月発行



改築基本構想 【概要版】

『すべては患者さんの笑顔のために』

市立秋田総合病院は、これまで約90年の長きにわたり市民の皆さまへ良質で安全な医療の提供に努めてきました。現病院は、建設からすでに30年以上が経過し、施設設備の老朽化や狭隘化が顕著となっています。

このため本院では、昨年度、改築場所を現地とする「市立秋田総合病院改築に係る検討報告書」をまとめ、これを受け今年度、新病院における医療機能や必要となる施設整備、事業計画等を盛り込んだ「市立秋田総合病院改築基本構想」を策定しました。

理念

市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けます。

基本方針

- ●常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院として多様化する医療への要望に応えます。
- ●患者さんの権利や意思を十分に尊重し、診療情報の提供による相互理解に基づく医療を 行います。
- ●医療の安全のさらなる向上に努め、患者さんが安心できる医療を行います。
- ●職員にとり働きがいのある就労環境の整備に努め、質の高い医療人を育成します。
- ●業務の改善と効率的な運営に努め、健全で安定した経営基盤を確立します。

主要な診療機能の取組方針

5疾病における本院の医療体制

治療、化学療法および放射線治療など、集学的医療を行います。

ともに、急性期および回復期リハビリテーションの充実に努めます。

急性心筋梗塞: 24時間対応可能な冠動脈カテーテル治療とその後のICUでの管理により、更なる

救命率の向上を目指します。

予防目的を含めた糖尿病教室を引き続き定期的に開催することにより、生活習慣の改

善につながるよう患者の意識啓発等の推進に努めます。

化に伴い身体合併症を有する患者が増加していることから、身体合併症を有する精神 疾患の対応病院としてその役割が増大しており、今後も急性期入院治療をはじめとす

る総合病院に求められる精神医療の充実に努めます。

5事業における本院の医療体制

小児医療

も迅速かつ適切に対応できるよう、24時間365日の対応を継続します。

災害時における医療:大規模な災害や事故などの発生時に被災地に駆けつけ救急医療を行うため、D

MATの2チーム体制を維持します。

周産期医療 : 緊急母体搬送の受入れを行うほか、合併症妊娠、切迫流産、重症妊娠中毒症の 管理を行う等、正常分娩以外にも対応し、安全で快適な出産環境を提供します。

:市内の小児科医等との連携により、小児科医が平日 24 時間、休日は 9:30-

22:30まで常駐して初期診療を行う小児科救急を引き続き実施し、秋田市の

目指す「子どもを生み育てやすい環境づくり」の一翼を担います。

1. 基本分析からの課題

医療需要

平成67年の秋田市の人口は平成27年と 比較し、約42%減少するものの、受療率の 高い65歳以上の高齢化率は約1.6倍近く 上昇すると推計されます。

これより、入院医療需要を推計すると、平成42年の2,752人をピークに減少すると推計されます。今後の医療需要に応じた適切な機能・規模を設定する必要があります。

その他の課題

救急医療に関しては、市内および医療圏内の救急告示病院群との円滑な連携の強化、精神疾患に関しては、身体合併症を伴う精神疾患への適切な対応、災害医療に関しては、大規模地震等の突発的かつ広域的な大災害時における医療体制の維持が必要となります。





建替えの必要性

本院は、昭和59年の竣工で、すでに建築後30年以上が経過し、各所で老朽化が見られ、漏水などを始めとする不具合が頻繁に生じていることや、病院全体および各部門の1床当たり面積は、近年竣工した同規模病院と比較すると狭く現行の医療法上の基準による診療報酬の加算も取得できない状況にあります。

また、プライバシー保持が十分にできない点や、トイレが狭く車椅子での利用に向かない点など、 患者のアメニティが十分確保されていないこと、職員の執務室や会議室等の面積不足、室数の不足 等により、円滑かつ効率的な業務執行の妨げになっていることなどから、早期に改善を図る必要が あります。

2. 病床機能・規模および外来機能

病床機能・規模

秋田市をはじめとする地域の患者数の将来 推計等より、新病院における病床機能および 規模は右表のとおりであり、合計 396 床程度 と想定しています。

病床数については、今後の検討により変更が生する場合があります。

一般病床	330床程度
(集中治療室	6 床程度)
(一般病床	264床程度)
(地域包括ケア病床	60床程度)
精神病床	50床程度
結核病床	1 2 床程度
感染症病床	4 床程度(第二種)
合計	396床程度

外来機能

本院の外来患者数は、秋田市の将来推計外来患者に連動し減少していくことが想定されるため、需要に応じた外来規模での運用を行います。

また、新病院における診療科目は、現状と同様に次のとおり想定しています。

外米診療科 (医療法)	呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液・腎臓内科、糖尿病・代謝内科、外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、乳腺・内分泌外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、救急科、歯科口腔外科 / 計25科			
院内標榜科	総合診療科		糖尿病フットケア外来、子どもの心診療外来、緩和ケア外来、プレママ外来、母乳外来、ウィルス性肝炎外来、炎症性腸疾患・IBD外来、もの忘れ外来、禁煙外来、ストーマ外来、呼吸リハビリテーション外来、遺伝カウンセリング外来、スポーツ整形外来 等	

3. 部門別運営計画

新病院における部門運営上のポイント

- ①患者窓口を「患者サポートセンター(仮称)」に一元化し、患者の利便性の向上を図ります。
- ②外来は、ブロック受付、フリーアドレス診察室の採用により、効率的な運営を行います。
- ③病室の個室率を高め、入院環境の向上を図るとともに病床利用率の向上を図ります。
- ④救急部門に隣接した救急病棟を設置し、夜間に搬送される患者の、よりスムーズな受け入れと安心・安全な入院環境を提供します。
- ⑤更衣室や休憩室を集約化することで、他職種とのコミュニケーションを図る機会を増やし、 チーム医療の質の向上を図ります。

4. 施設整備計画

施設整備方針

- 患者さんの笑顔のための施設整備: 秋田市エイジフレンドリーパートナーおよび
 - 秋田市バリアフリー基本構想の実現に向けた施設整備
- 人が育つ働きがいのある施設整備:職員アメニティスペースの充実
- 多様化する医療の変化に対応可能な施設整備:成長と変化に対応する病院
- 経営の視点を考慮した施設整備:建設コストの低減・ライフサイクルコストの縮減
- 地球環境に配慮した施設整備:自然エネルギーの積極的な活用

建設規模

新病院の建設規模は、他病院の事例を参考に 1 床当たり 80 ㎡、32,000 ㎡程度 とします。

5. 概算事業費

- 新病院建設に掛かる概算事業費は、約186.6億円を見込んでいます。
- (①本体工事費、②外構工事費、③医療機器・什器・備品等、④設計委託費、⑤解体費、
- ⑥駐車場整備費、⑦医療情報システム、⑧患者移送費を含む)
- ※事業費については、今後、設計段階・工事段階の各段階において精査した金額を算出する ことになりますが、なお一層の縮減に努めます。

6. 収支シミュレーション

一定の条件設定のもとで、事業収支を試算した結果、開院当初は、減価償却費の額が大きいため赤字となりますが、平成39年度からは黒字に転じ、利益累計でも平成51年度には黒字への転換が想定されます。

平成63年度からは本体の大規模修繕や患者減少などにより単年度赤字となりますが、事業 期間中の利益累計は黒字となるため、安定的な経営が可能であると想定されます。